

5つの技術分野で「産業集積」を創出し「ぐんま星雲クラスター構想」



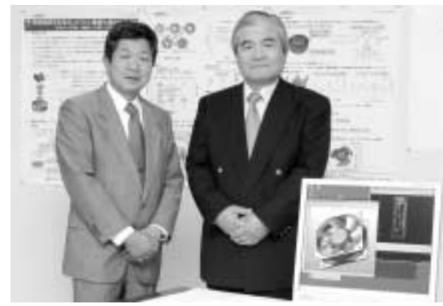
**従来の発想にとらわれない
新たな視点での産業戦略構想**

バブルの崩壊から10年あまり、日本経済は依然として低迷を続けている。群馬県経済も例外ではなく、制度融資や補助金の拡充、雇用対策の充実などさまざまな手を尽くしているが、工業出荷額の減少に歯止めが掛からない。こうした状況を好転させるには、従来の発想にとらわれない新たな視点での産業戦略が必要だ。そこで、県では平成15年度から新しい産業戦略構想に着手した。それが「ぐんま星雲クラスター構想」である。

ここで言う星とは、県経済における個別企業を指す。夜空でかすかに光る小さな星でも、無数に集まれば「星雲」となるように、「地上の星」ともいうべき中小企業の技術力に着目。産学官連携の積極的な推進や国や県の経済政策をより推進することで、技術力の強化と企業の新しいネットワークをつくり産業集積の創出を目指している。

「2つのI」と「5つの技術力」が構想実現のキーワード

この「ぐんま星雲クラスター構想」の実現で、キーワードとなるのが「2つのI」と「5つの技術力」である。



アナログ技術の振興を目指すNPO法人「アナログ技術ネットワーク」の堀江昇理事長（日本サーボ株式会社代表取締役社長兼取締役）（右）と吉田一雄事務局長（左）

「2つのI」とはインフォメーション情報とインヴォルブメント（巻き込み）を意味する。インフォメーションは、刻々と変化する経済・社会情勢にリアルタイムに対応するため、県民や民間企業、大学などと情報の共有化を図っていくこと。インヴォルブメントは、県民や民間企業、大学などに積極的な参加を促すことで、「星雲の渦巻き」を大きく広げようとするものである。

「5つの技術力」とは、これからの時代に不可欠であり、また、群馬県が高い潜在能力や可能性を有している技術分野へ特化していくことを示している。具体的には、極精細な世界を扱う「ナノ

テク」（ナノは10億分の1の単位）、環境意識の高まりに対応する「エコ」、医療や農業など応用分野が広く市場性も豊かな「バイオ」、最先端IT技術に不可欠な中核技術である「アナログ」、そして県内の基盤技術の高度集積を活かした「マザーメカ」の5つの分野である。

NPO法人の設立をはじめ具体的な成果が着々と

今年の4月からスタートした「ぐんま星雲クラスター構想」は着々と実を結んでいる。

その一つが国公募型事業の活用である。製造業の国際競争力アップを目指し、経済産業省が実施する「戦略的基盤技術力強化事業」の金型分野において、県内から申請した2つの研究グループが県の支援のもとに採択を受け、国からの補助金を利用して製造期間の大幅短縮や鋳造部品での新素材利用の実用化を進めている。

そしてもう一つが、NPO法人の創設支援である。すでに「アナログ技術ネットワーク（ATN）」がNPO法人の認可を受け活動をスタートした。同法人の小南靖男理事長がその活動方針をこう語る。「デジタル化時代に重要性を増すアナログ技術の分野で、技術の強化・活性化に取り組んでいくのがATNの役割。情報ネットワークの構築や技術コンサルティング、人材育成の面でアナログ技術の振興に貢献していきたい。県からの委託で技術者教育を実施する予定もあります」。

「ぐんま星雲クラスター構想」を主導する県商工労働部では、今後も企業間ネットワークの構築や大学発ベンチャー創業機運の盛り上げなど積極的に取り組んでいく考えだ。

「ぐんま星雲クラスター構想」スキーム

